⚠ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

VK540IV

8JD-28199-J0

はじめに

ヤマハ商品をお買上げいただき、まことにありがとうございます。
本書は、商品の安全性に関する情報および商品の正しい取り扱い方法と簡単な点検・調整について説明してあります。
万一、取り扱いを誤ると重大な事故や故障の原因となります。
あなた自身の安全と環境や住民の方との調和のために、また商品の性能を十分に発揮させるために、商品の取り扱いを十分ご存じの方も、この商品独自の装備、取り扱いがありますので、ご使用される前には必ず本書を最後までよくお読みください。また、ご使用時には携帯して、安全に商品をご使用くださいますようお願い申し上げます。

- 本書では正しい取り扱いおよび点検・調整に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠	**安全にかかわる注意情報を示してあります。**
⚠ 警 告	**取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**
注 意	**取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**
要 点	正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示してあります。

この車はレース仕様車ではありません。
したがってレースにご使用されますと、保証対象外になることがあります。

- 仕様変更などにより、本書の図や内容が一部実機と異なる場合がありますのでご了承ください。
- 本書は大切に保管し、本機の転売や譲渡をされる場合は必ず添付してください。
- 将来、廃棄される場合及びバッテリ、廃油等の廃棄処理をされるときは、環境保護のためお買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。
- 保証書はよくお読みいただき、裏面のヤマハ販売店名・捺印をご確認のうえ、大切に保存してください。

ご不明な点や不具合なところがありましたら、お早目にお買い上げのヤマハ販売店にご相談またはお申しつけください。
ヤマハ販売店では、お客様の良きアドバイザーとしてご来店をお待ちしております。

目次

目次

重要ラベル

スノーモビルを運転する前に以下のラベルをよくお読みください。

要　点

重要ラベルは、外さないようにし必要に応じて新しいものと交換してください。

①

⚠ 警　告

安全な運転のために次の事項を必ずお守り下さい。

- 運転前に“取扱説明書”および全ての“ラベル”を良く読み、熟知してからご使用下さい。
- 運転はスノーモビル運転に熟達した人の指導のもとで行って下さい。
- この車は一般道路は走行出来ません。（オフロード車）
- エンジン始動前にスロットルレバー、ブレーキレバー、ハンドル等が正常に作動することを確認して下さい。
- “パーキングブレーキ”をロックしてからエンジンを始動して下さい。また、走行前にはロックを解除して下さい。
- 緊急時のエンジン停止は“エンジンストップスイッチ”を押して下さい。
- “ドライブガード”や“Vベルト”を外したままでエンジンを始動しないで下さい。
- 燃料給油はエンジンを停止してから行い、給油後は“タンクキャップ”を確実に閉めて下さい。
- “ヘルメット”“ゴーグル”“手袋”“防寒具”等を装着して運転して下さい。
- 運転前にシフトレバーの位置（前進、後進又は低速前進）を確認して下さい。

D　R　L

シフトレバー操作上の注意

- シフトレバーの操作は車両が完全に停止した状態でブレーキレバーを握ってから行なって下さい。
- D は前進通常走行時のレバー位置です。
  R は後進です。
  L は前進で主にけん引、積載走行時に使用します。
  L では **50km/H** 以上で走行しないで下さい。

8AC-77761-00

②

⚠ 警　告

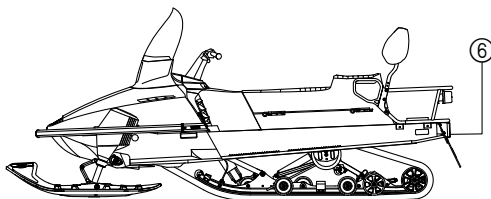
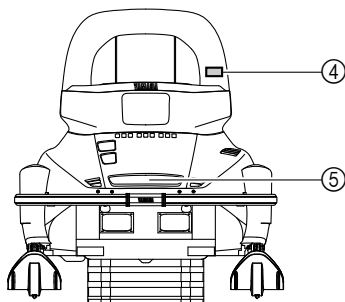
このドライブガード及びVベルトをはずしたままで、エンジンを始動しないで下さい。

8BD-77762-21

③

積載の制限

20kg

4KN-24877-C0

④

注　意

- スクリーンにアルカリ性及び酸性のクリーナー、ガソリン、ブレーキ液等が付着するとヒビ割れ等の原因になります。
- 清掃は中性洗剤で行ってください。

4B5−2815K−20

⑤

注　意

深新雪走行時には　このプレートを閉めてください。

8AC-2815P-J0

⑥

けん引荷重制限：1176 N (120 kgf)
縦方向荷重制限：　147 N (　15 kgf)

8GS-2817S-J0

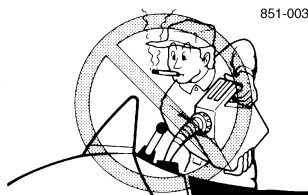
⚠ 安全運転のために

スノーモビルに乗る時は、安全のため次の事項をよく理解し活用してください。
これら事項が守られなかった場合、死亡または重傷に至る恐れがあります。

運転の前に

- スノーモビルを運転する前に取扱説明書と全てのラベルをよく読んでください。運転に関係するコントロール部位やその機能をすべて十分に理解してください。コントロール方法や機能について不明な点があれば、ヤマハ販売店にご相談ください。
- 体を保護する衣類を着用してください。ヘルメットは PSC、SG または JIS マークのあるものを着用してください。フェイスシールドまたはゴーグルを着用してください。スノーモビル用スーツ、ブーツ、手袋（指でコントロール類の操作ができるもの）を着用してください。

851-001

- アルコール類や薬を飲んで運転しないでください。アルコールや薬は運転者の運転能力を低下させます。
- 燃料は引火性が高いので注意して取り扱ってください。
  エンジンが動いている時あるいは熱い時は、決して燃料を給油しないでください。燃料の給油は、スノーモビルの走行後数分間待ってエンジンを冷してからおこなってください。
  ガソリン携行缶を使用する場合は消防法に適応したものを使用してください。
  燃料は戸外で慎重に燃料タンクに入れてください。屋内では燃料タンクキャップを絶対に外さないでください。屋内では燃料タンクへの燃料給油を絶対におこなわないでください。
  たばこを吸いながら、あるいは火気の近くでは決して燃料給油をおこなわないでください。
  給油後は燃料タンクキャップを確実に閉めてください。こぼれた燃料はただちに拭き取ってください。

851-003

- ガソリンが口に入った場合、気化したガソリンを大量に吸い込んだ場合、またはガソリンが目に入った場合は、すぐに医師の診断を受けてください。こぼれたガソリンが皮膚や衣服についた場合、すぐに皮膚を石鹸と水で洗い、衣類は着替えてください。

始動の前に

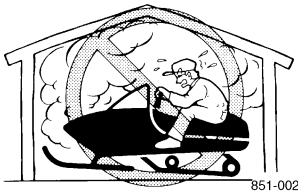
- 安全のため、またスノーモビルの適切な手入れのため、エンジンを始動する場合は必ず 11 ページ以降に記載された使用前の点検をおこなってください。エンジン始動のたびにスロットル、ブレーキ、ハンドルの適切な作動を点検してください。スロットルレバーがスムーズに動き、放すと元の位置（完全にスロットルが閉じた状態のこと）に戻ることを確認してください。
- エンジンを始動する時はあらかじめパーキングブレーキをかけてください。パーキングブレーキをかけたままスノーモビルを走らせないでください。もし走行させると、ブレーキディスクが加熱してブレーキの性能が低下する恐れがあります。

運転中は

- このスノーモビルは公道を走れるようには作られていません。公道の走行は法律で禁止されており、公道を走ると他の車両と衝突する恐れがあります。
- スノーモビルの走行は慎重におこなってください。雪の下には障害物が隠れていることがあります。スキーの跡をたどって走行すれば危険を最小限にとどめることができます。スキーの跡から外れる時はゆっくり注意して走行してください。岩や切り株にぶつかったりワイヤーに引っかかったりすると事故や負傷のもとになります。

- このスノーモビルは雪または氷の表面以外を走るようには設計されていません。泥、砂、草、岩、雪のない路面の上を走行すると制御不能となったり、あるいはスノーモビルを傷つけたりすることがあります。
- 走行する時は必ず他のスノーモビルと一緒に行動してください。燃料不足、事故、故障時に、助けが必要になるからです。
- 氷や圧雪など、多くの雪面では停止距離がはるかに長くなります。注意を怠らず、先を見通して、早めに減速してください。ほとんどの表面で最良のブレーキのかけ方は、スロットルを放し、ブレーキを徐々にかけることです。（急にかけてはいけません。）

風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

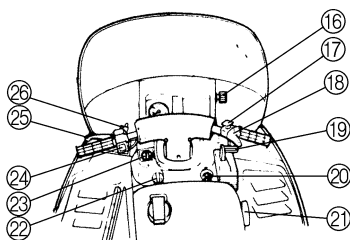
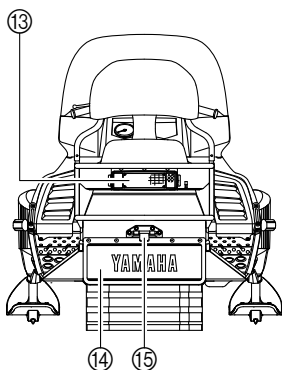
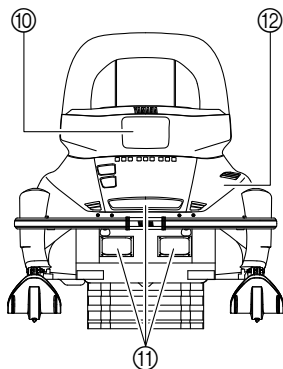
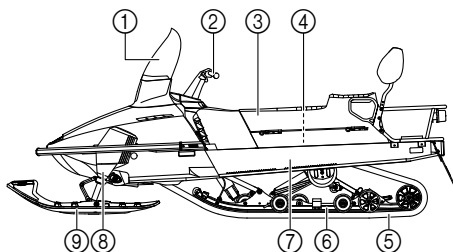
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。
  スノーモビルを建物に出し入れする時を除き、屋内ではエンジンをかけないでください。
  屋内でエンジンをかける時は戸外に通じるドアを開いてください。

また、排気ガスが窓やドアから屋内に入りこんでしまうような場所でもエンジンを始動しないでください。

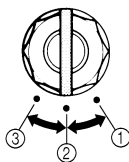
ヤマハ純正部品

スノーモビルの部品を選ぶのは重要な決定です。ヤマハ純正部品はあなたのスノーモビルの為にデザイン、テストの上で認定され、ヤマハのディーラーからのみ入手可能となっています。ヤマハと全く関係のない他社でパーツやアクセサリーを販売したり、ヤマハ車の改造を提供している事がありますが、ヤマハはこれら市場に出ている部品をテストする立場にはいません。したがってたとえそれがヤマハのディーラーによって売られ、改造されたとしても、ヤマハで売られていない部品、または推奨されていない改造である場合はお勧めすることはできません。

保守と保管

- 点検整備時にスノーモビルを横にする際は、あらかじめ適切なスタンドでスノーモビルをしっかりと支えてください。
- スノーモビルを長期間保管する場合は、車体の左側を下にして置かないでください。燃料ブリーザーホースから燃料が漏れることがあります。
- スノーモビルを始動、点検あるいは調整する時は、後ろに人が誰もいないことを確認してください。破損したトラックやトラック固定具、あるいはトラックがはね上げた小石などが、運転者や同乗者に危険を及ぼす恐れがあります。
- ヤマハの承認なしにスノーモビルを改造し、あるいは純正装備品を取り外した場合、スノーモビルを安全に使用することができなくなり、乗員が重傷を負う恐れがあります。また改造したスノーモビルの使用は法律違反になります。
- 給湯器やヒータ、火気、火花、衣類乾燥機など、発火源がある建物内では、決して燃料タンクに燃料を入れたままスノーモビルを保管しないでください。閉鎖空間にスノーモビルを保管する場合は、エンジンが冷えてからにしてください。

各部の名称

① ウインドシールド
② ステアリングハンドルバー
③ シート
④ 収納用コンパートメント
⑤ ドライブトラック
⑥ スライドレールサスペンション
⑦ フレーム
⑧ テレスコピックストラットサスペンション
⑨ スキー
⑩ ヘッドライト
⑪ エンジンコンパートメントプレート
⑫ シュラウド
⑬ テール／ブレーキライト
⑭ スノーフラップ
⑮ けん引用連結装置
⑯ ヘッドライト調整ノブ
⑰ エンジン停止スイッチ
⑱ スロットルレバー
⑲ ドライブセレクトレバー
⑳ メインスイッチ
㉑ スタータハンドル
㉒ スタータ（チョーク）レバー
㉓ グリップ／サムウォーマースイッチ
㉔ ヘッドライトビームスイッチ
㉕ ブレーキレバー
㉖ パーキングブレーキボタン

■ メインスイッチ
メインスイッチは以下のそれぞれを制御します。

831-004

① OFF（オフ）位置
② ON（オン）位置
③ START（始動）位置

◆ OFF（オフ）位置
点火回路をオフにします。
キーはこの位置でのみ抜くことができます。

◆ ON（オン）位置
点火回路をオンにします。
リコイルスタータでエンジンを始動できます。

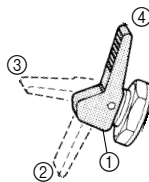
◆ START（始動）位置
始動回路をオンにします。
スタータモータが作動し、エンジンが始動されます。

注 意

エンジンが始動したらすぐに、メインスイッチから手を離してください。

要　点

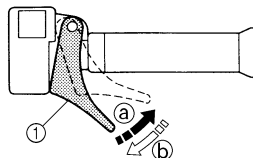
エンジンが始動するとヘッドライト、メータライト、テールライトが点灯します。

■ スタータ（チョーク）レバー
スタータ（チョーク）レバーは、冷えているエンジンを始動して暖気運転する場合に使用します。

815-001

① スタータ（チョーク）レバー
② 冷えているエンジンを始動する場合
③ 暖気運転の場合
④ エンジンが暖まっている場合

要　点

操作方法に関しては、16 ページの「エンジンの始動」を参照してください。

■ スロットルレバー
エンジンがスムーズに回っている時、スロットルレバー①をⓐ方向に動かすとエンジンの回転が上がり、動力が駆動系につながります。スロットル位置を変えてスノーモビルの速度を制御します。スロットルレバーはスプリングの力で押されており、スロットルレバーを放すとⓑ方向にスロットルレバーが動き、スノーモビルは減速し、エンジンはアイドリング状態に戻ります。

816-001

⚠ 警 告

エンジンを始動する前に、スロットル、ブレーキ、ステアリングを点検してください。

コントロール機能（各部の機能）

■ スロットルオーバーライドシステム (T.O.R.S.)

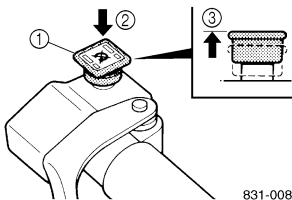
⚠警告

T.O.R.S. が作動した場合は、不具合の原因が解消されエンジンが正常に作動することを確認した後、再度エンジンを始動してください。

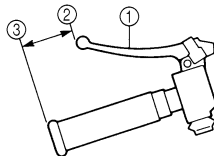
運転中にスロットルバルブまたはスロットルケーブルの機能不良が起こった場合、スロットルレバーを放した時に T.O.R.S. が作動します。T.O.R.S. は、スロットルレバーを放してもスロットルバルブがアイドリング位置に戻らなかった場合に、点火を中断し、エンジンが停止するように設計されています。

	アイドリング時	走行時	トラブル時
スロットルレバー	放す	押す	放す
スロットルバルブ	閉じる	開く	開く
T.O.R.S.	エンジン正常運転	エンジン正常運転	T.O.R.S. 作動

■ エンジン停止スイッチ“⊠”

エンジン停止スイッチ ① は、緊急時にエンジンを停止させるために使用します。停止スイッチを押す ② だけで、エンジンは停止します。エンジンを始動するには、停止スイッチを引き戻して ③ から、エンジンの始動手順をおこなってください。（詳細は 16 ページを参照。）

初めての走行時に何回か停止スイッチを使って練習し、緊急時にもすばやく対応できるようにしてください。

■ ブレーキレバー

スノーモビルの停止は、駆動系全体にブレーキをかけておこなわれます。スノーモビルを停止させるには、ブレーキレバーをハンドルバーのグリップ方向に引いてください。

① ブレーキレバー
② ブレーキレバー先端
③ ハンドルバー先端

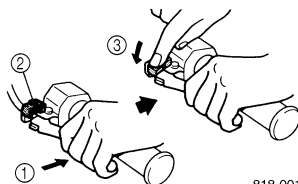
要 点

ブレーキレバーを操作するとブレーキライトが点灯します。

注 意

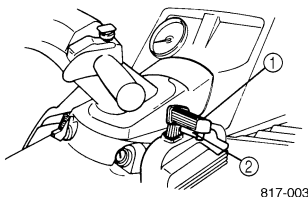
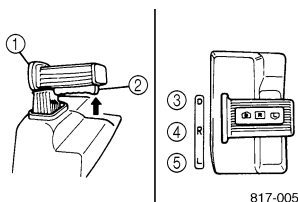
ブレーキレバーの端はハンドルバーの端より外に突出させないでください。そうすればスノーモビルを整備のため横位置にした場合もブレーキレバーを傷めません。

■ パーキングブレーキボタン

スノーモビルを駐車する時またはエンジンを始動する時は、パーキングブレーキをかけてください。
ブレーキレバーを握り ①、パーキングブレーキボタン ② を ③ のように押した状態でブレーキレバーを離してください。
パーキングブレーキを解除するには、ブレーキレバーを引いてください。

⚠警 告

- **エンジンの始動は、必ずパーキングブレーキをかけてからおこなってください。**
- **パーキングブレーキをかけたままの状態では、決してスノーモビルを走らせないでください。走行させると、ブレーキディスクが加熱してブレーキの性能が低下する恐れがあります。**

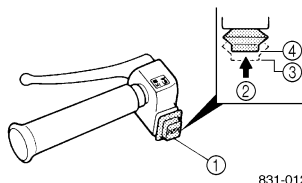
■ ドライブセレクトレバー

ドライブセレクトレバーは、スノーモビルの前進、後退、および低速走行の切替えに使用します。スノーモビルが完全に停止してから、レバーの下側のストッパーを引き、レバーを希望の位置にシフトしてください。

① ドライブセレクトレバー
② ストッパー

レバーの位置	スノーモビルの動き
③ D	前進します
④ R	後退します
⑤ L	低速走行（前進）します

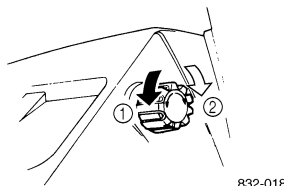
注 意

スノーモビルが動いている時は、シフトレバーを前進から後退に、または後退から前進にシフトしないでください。そのようなシフトをおこなうと、駆動系が損傷する恐れがあります。

■ ヘッドライトビームスイッチ

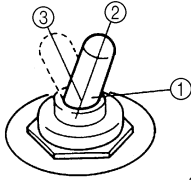
ヘッドライトビームスイッチを押す度に、ヘッドライトの “ハイ” と “ロー” が切り替わります。

① ヘッドライトビームスイッチ
② 押す
③ ハイビーム
④ ロービーム

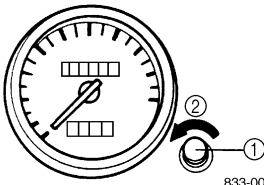
■ ヘッドライト調整ノブ

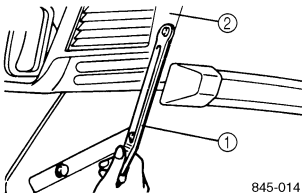
ヘッドライトビームの縦方向の調整をするときは、ヘッドライト調整ノブを使用してください。
ヘッドライトビームの動き：

① 上方向
② 下方向

■ グリップ／サムウォーマースイッチ

グリップ／サムウォーマースイッチは、ハンドルバーグリップとスロットルレバーに内蔵されている電気ヒーターを制御します。

コントロール機能（各部の機能）

① グリップ／サムウォーマースイッチ
② オン
③ オフ

■ トリップメータリセットノブ
トリップメータをリセットするときは、トリップメータリセットノブを使用してください。

① トリップメータリセットノブ
② 左（反時計方向）に回す

■ シュラウドラッチ
シュラウドを開くには、シュラウドラッチのフックを外し、シュラウドをゆっくりと、停止位置まで完全に持ち上げてください。シュラウドを閉じるには、シュラウドをゆっくりと元の位置まで下げて、シュラウドラッチのフックをかけてください。

① シュラウドラッチ
② シュラウド

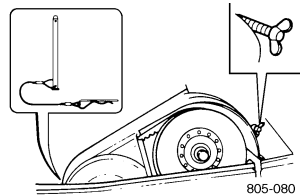
⚠ 警 告

- **シュラウドが開いた状態、シュラウドラッチがかかっていない状態、またはシュラウドを取り外した状態では、スノーモビルを運転しないでください。**
- **シュラウドを開いて整備をおこなう時は、回転部品に身体や着衣が近づかないように特に注意してください。**
- **運転中および運転直後は、高温状態のマフラーやエンジンに接触しないように特に注意してください。**

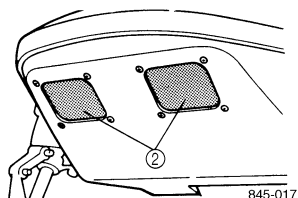
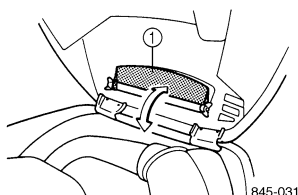
注 意

シュラウドを閉じる時は、すべてのケーブルとワイヤーを確実に元の位置に戻してください。

■ ドライブガード
ドライブガードは、部品の破断や緩みに備え、V ベルトクラッチやV ベルトをカバーするように設計されています。

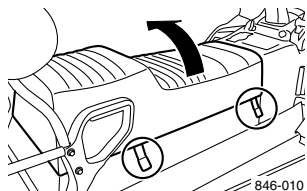
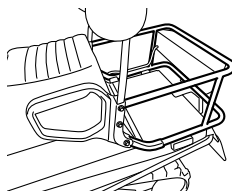
⚠ 警 告

- **スノーモビルを運転する時は、あらかじめドライブガードがしっかりと固定されていることを確認してください。**
- **Vベルトやドライブガードを外した状態では、決してエンジンを回転させないでください。**

■ エンジンコンパートメントプレート
当スノーモビルには、エンジンのクールダウンをおこなうために、開閉式のエンジンコンパートメントプレート ① がシュラウド内に装備され、また取り外し式のエンジンコンパートメン

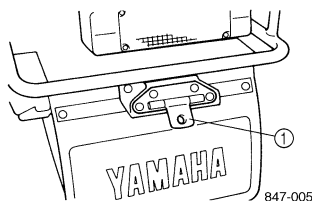
トプレート ② がベリーパン内に装備されています。

注 意

- **深雪の中でスノーモビルを走らせる時は、シュラウド内のエンジンコンパートメントプレートが閉じられ、またベリーパン内にエンジンコンパートメントプレートが取り付けられていることを確認してください。**
- **周囲の温度が 5 ℃以上の時は、シュラウド内のエンジンコンパートメントプレートを開き、またベリーパン内のエンジンコンパートメントプレートを取り外してください。**

■ 収納用コンパートメント

収納用コンパートメントは、シートの下側に設けられています。シートを開くには、ラッチのフックを外し、シートの右側を持ち上げてください。シートを閉じるには、ゆっくりと元の位置まで下げて、ラッチのフックをかけてください。

■ リヤキャリア

最大積載重量：
20 kg

■ けん引用連結装置

けん引用連結装置を使用する場合は、指定された重量制限を守って使用してください。

① けん引用連結装置

最大けん引荷重限度：
120 kgf
縦方向の荷重制限：
15 kgf

注 意

V ベルトの摩耗をできるだけ防ぐために、長距離または長時間にわたってけん引する時は、10 km/h未満の走行を避けるようにしてください。

使用前の点検

警 告

エンジン運転後は、エンジン本体とマフラーが非常に高温になっています。点検や修理をおこなう時は、高温状態のこれらのパーツに身体や衣服が接触しないようにしてください。

要 点

使用前の点検はスノーモビルに乗るたびに、おこなってください。

■ 燃料

燃料タンクには燃料を充分に給油しておいてください。

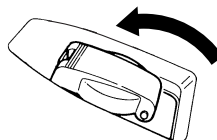
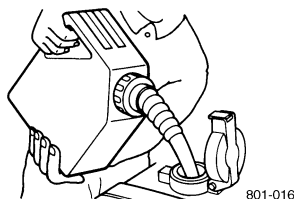
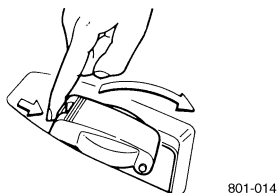
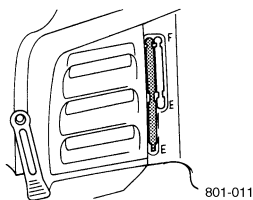
警 告

- **燃料は引火性が高く有毒です。燃料を給油する前に「安全運転のために」の項をよくお読みください。****（3 ページを参照。）**
- **燃料タンクいっぱいに給油しないようにしてください。スノーモビルが傾いた場合、あるいは周囲の温度の上昇により燃料の温度が上がり膨張した場合、燃料があふれることがあります。**
- **給油後は燃料キャップを確実に閉めてください。燃料が漏れると引火する恐れがあります。**

801-011

801-014

801-016

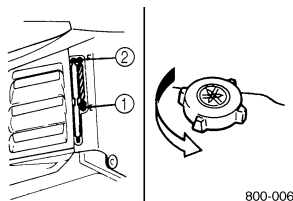
861-024

推奨燃料：
　無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク容量：
　31.0 L

注 意

- **給油時に、雪や氷が燃料タンクに入らないよう気をつけてください。**
- **燃料タンクには指定の無鉛レギュラーガソリンを給油してください。**

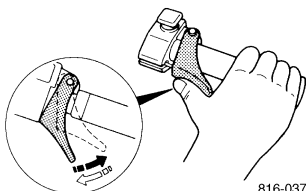
■ エンジンオイル

オイルタンクに充分な量のオイルが入っていることを確認してください。

800-006

① 下限レベル
② 上限レベル

オイルタンク容量：
2.5 L
推奨エンジンオイル：
オートルーブスーパーオイル

■ スロットルレバー

エンジンを始動する前に、スロットルレバーの作動を確認してください。作動がスムーズで、スロットルレバーから手を離すと、スプリングの力で元の位置に戻ることを確認してください。

816-037

■ リコイルスタータ

リコイルスタータが正しく作動し、またリコイルスタータロープに損傷がないことを確認してください。

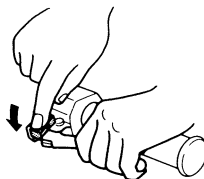
815-005

■ スロットルオーバーライドシステム (T.O.R.S.)

T.O.R.S. が適切に作動するか点検してください。

⚠ 警 告

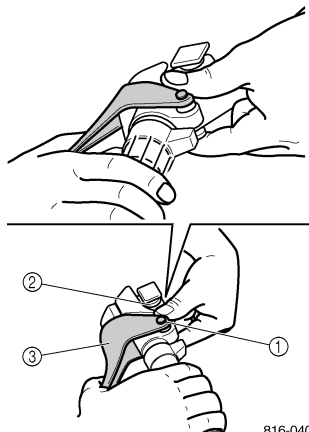
T.O.R.S. を点検する時は：

- **パーキングブレーキがかかっていることを確認してください。**
- **スロットルレバーがスムーズに動くことを確認してください。**
- **エンジン回転数をクラッチイン回転数まで上げないでください。スノーモビルが急発進して、事故を起こす恐れがあります。**

818-034

1. エンジンを始動します。

要　点

操作方法に関しては、16 ページの「エンジンの始動」を参照してください。

2. スロットルレバーの回転軸 ① とエンジン停止スイッチハウジング②の間を親指（上側）と人指し指（下側）で挟み、スロットルレバーの回転軸をスロットルスイッチから離してください。この状態を保ったまま、スロットルレバー ③ を徐々に押してください。

816-040

T.O.R.S. が作動し、エンジンが直ちに停止します。

⚠警 告

エンジンが停止しない場合は、メインスイッチを OFF 位置にしてエンジンを止め、ヤマハ販売店にご相談ください。

■ ブレーキ

発進する時は低速でブレーキをテストし、適切に作動することを確認してください。ブレーキ性能が不十分な場合は、ブレーキパッドの摩耗の有無を点検して下さい。(詳細は 32 ページを参照。)

⚠警 告

ブレーキ系統に問題が見つかった場合は、スノーモビルを運転しないでください。ブレーキがかからず、事故を起こす恐れがあります。ヤマハ販売店にブレーキ系統の点検と修理を依頼してください。

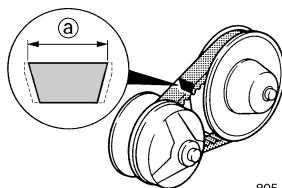
注 意

ブレーキレバーの端はハンドルバーの端より外に突出させないでください。そうすればスノーモビルを横位置にした場合もブレーキレバーを傷めません。

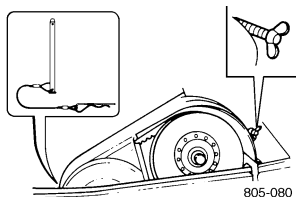
■ V ベルト

⚠警 告

- **スノーモビルを運転する時は、あらかじめドライブガードがしっかりと取り付けられていることを確認してください。**
- **Vベルトやドライブガードを外した状態では、決してエンジンを回転させないでください。**

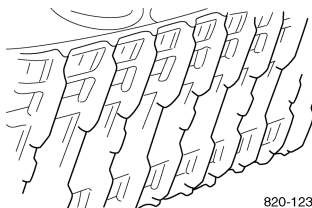
シュラウドを開きドライブガードを取り外します。
V ベルトに摩耗や損傷がないか点検してください。必要に応じ交換してください。

摩耗限度 ⓐ： 32.5 mm

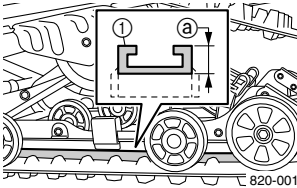
■ ドライブガード

ドライブガードの取り付け部に損傷がないか点検してください。ウイングボルトが確実に締め付けられ、ドライブガードが所定位置に確実に取り付けられていることを確認してください。

■ ドライブトラック

⚠警 告

ドライブトラックに損傷または調整不良が見つかった場合、スノーモビルを運転しないでください。ドライブトラックが損傷・故障するとブレーキ能力が失われ、スノーモビルが制御できなくなり、事故を起こす恐れがあります。

ドライブトラックのたわみ量、摩耗、損傷の有無を点検してください。必要に応じ調整または交換してください。(詳細は 34 ページを参照。)

■ スライドランナー

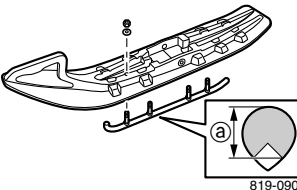
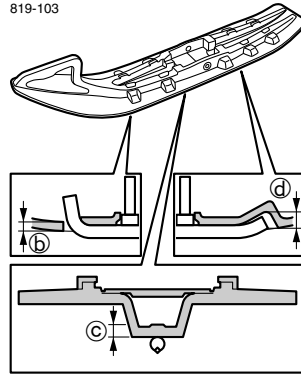
スライドランナーに摩耗や損傷がないか点検してください。スライドランナーが摩耗限度に達している場合は、交換してください。

① スライドランナー

摩耗限度の高さ ⓐ：
10.5 mm

注 意

できるだけ新雪の上を走行するようにしてください。氷や圧雪の上で運転するとスライドランナーの摩耗が早くなります。

■ スキー、スキーランナー

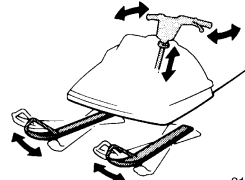
スキーとスキーランナーに摩耗や損傷がないか点検してください。必要に応じ交換してください。

スキーランナーの摩耗限度 ⓐ：
9.0 mm
スキー摩耗限度（フロント）ⓑ：
7.0 mm
スキー摩耗限度（センター）ⓒ：
6.0 mm
スキー摩耗限度（リヤ）ⓓ：
12.0 mm

注 意

スノーモビルを積み下ろしする時、雪が少ない場所を走行する時、あるいはコンクリート、縁石などの近くを走行する時はスキーに傷をつけない様に注意してください。スキーを摩耗・損傷させます。

■ ステアリング系

ハンドルバーに過度の遊びがないか点検してください。

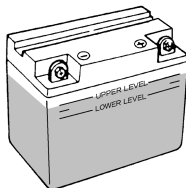
1. ハンドルバーを上下、前後に押します。
2. ハンドルバーを少しだけ左右に振ります。

過度の遊びが認められる場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

使用前の点検

■ ライト類

ライトを確認してください。バルブが切れている場合は交換してください。

■ バッテリ

バッテリの液量を調べ、必要な場合は補充してください。

830-007

補充が必要な場合は、蒸留水のみを使用してください。（詳細は 38 ページ、および 42 ページを参照。）

■ 取付金具、ボルト類

取付金具とボルト類が確実に締め付けられていることを、確認してください。必要に応じ、適切な順序とトルクで締め付けてください。

■ ツールキットと推奨装備

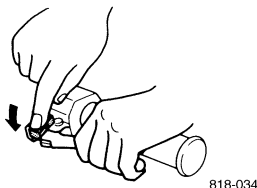
スノーモビルを運転しているときは、必要に応じて簡単な修理ができるように、ツールキット、スペアパーツ、およびその他の必要な装備を乗せておくようにしてください。以下のそれぞれを常に携行するようにしてください：

- ツールキット
- フラッシュライト
- 粘着テープ
- スチールワイヤー
- けん引用ロープ
- V ベルト
- ライトバルブ
- スパークプラグ

長距離ライディングの時は、充分な量の燃料とエンジンオイルも携行するようにしてください。

■ エンジンの始動

警 告

- **エンジンを始動させる前に必ず 3 ページの「安全運転のために」をよくお読みください。**
- **パーキングブレーキがかかっていることを確認してください。**

818-034

要 点

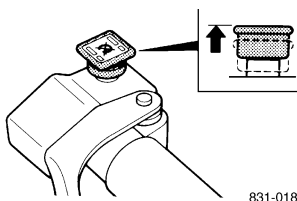
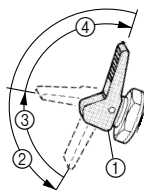
エンジン停止スイッチが引き戻されていることを確認してください。

831-018

1. スタータ（チョーク）レバーを全開位置にします。

815-002

① スタータ（チョーク）レバー
② 全開位置（コールドスタート時）
③ 半開位置（暖気運転時）
④ 全閉位置（ウォームスタート時）

要 点

エンジンが暖まっている時は、スタータ（チョーク）レバーは操作不要です。スタータ（チョーク）レバーを全閉位置にしてください。

2. メインスイッチを START（始動）位置にします。エンジンの始動後、スタータ（チョーク）レバーを半開位置にします。エンジンの回転が安定し、スタータ（チョーク）レバーを全閉位置に戻してもエンジンが停止しなくなるまで、暖気運転を続けます。

831-006

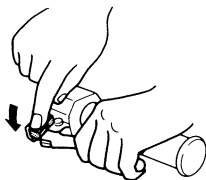
① START（始動）位置

注 意

- **エンジンが始動したらすぐに、メインスイッチから手を離してください。**
- **エンジンが始動しなかったらスイッチから手を離し、数秒待って再度スイッチを入れてください。バッテリの消耗を防ぐため、スイッチを入れる時間はなるべく短くしてください。スイッチを入れてエンジンを回す時間は、一回につき 10 秒以内にしてください。**

■ 緊急時のエンジン始動

警 告

- **エンジンを始動させる前に必ず 3 ページの「安全運転のために」をよくお読みください。**
- **パーキングブレーキがかかっていることを確認してください。**

818-034

要　点

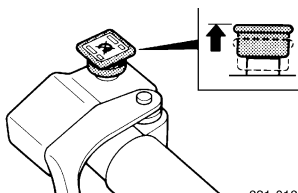
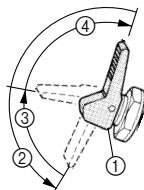
エンジン停止スイッチが引き戻されていることを確認してください。

831-018

1. スタータ（チョーク）レバーを全開位置にします。

815-002

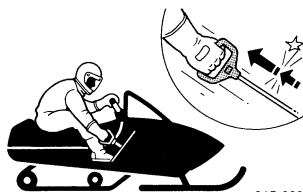
① スタータ（チョーク）レバー
② 全開位置（コールドスタート時）
③ 半開位置（暖気運転時）
④ 全閉位置（ウォームスタート時）

要　点

エンジンが暖まっている時は、スタータ（チョーク）レバーは操作不要です。スタータ（チョーク）レバーを全閉位置にしてください。

2. メインスイッチを ON（オン）位置にします。

831-002

① ON（オン）位置

3. リコイルスタータハンドルを重みが感じられるまでゆっくり引き、次に一気に力強く引っ張ります。エンジンの始動後、エンジンの回転が安定し、スタータ（チョーク）レバーを全閉位置に戻してもエンジンが停止しなくなるまで、暖気運転を続けます。

815-009

■ 慣らし運転

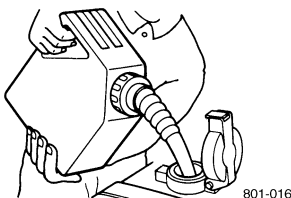
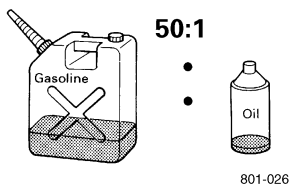
スノーモビルの全使用期間のうちで、慣らし運転の期間ほど大切な期間はありません。最初の 10 時間、走行距離が約 200 km に達するまでは、エンジンに過度の負荷をかけないでください。長時間のフルスロットル運転をしないようにしてください。また、濡れた雪面での走行など、エンジンに負担をかけないようにしてください。過度の振動やノイズ（異音）などの異常が認められる場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

要　点

エンジンの慣らしを正しくおこなうために、新しいスノーモビルに最初に燃料を入れる時は、ガソリン 50 に対し、オイル 1 の割合で混合したものを給油してください。
例：
10 L のガソリンに 0.2 L のオイルを混ぜると、50：1 の混合比になります。

（推奨ガソリンとオイルについては、11 ページを参照。）

801-026

801-016

■ スノーモビルに乗る

◆ スノーモビルをよく知ろう

⚠ 警 告

- **運転者は常に両手でハンドルバーをにぎっていてください。**
- **フットレストの外に足を絶対に出さないでください。**
- **スノーモビルとその操作を充分理解するまでは、高速走行をしないでください。**

スノーモビルはライダーが体でコントロールする乗り物で、ライディングポジションとバランスがスノーモビルを操縦する 2 大要素です。スノーモビルに乗るには、長時間にわたる実践で技量を習得する必要があります。高度なライディングを試す前に、基本的な技能を確実に習得してください。
新しくお求めになったスノーモビルを運転するのは楽しく、時間を忘れてしまうでしょう。しかし楽しく安全に乗るには充分な技量が必要で、その技量を身につけるにはスノーモビルの操作に習熟することが不可欠です。スノーモビルを運転する前に、まず「取扱説明書」を熟読し、操作をよく理解してください。
特に 3 ページに記載された「安全運転のために」には注意を払ってください。
スノーモビルの車体に貼られた警告ラベルと注意ラベルをよく読んで、また同梱の「スノーモビル安全運転ハンドブック」にも目を通してください。

◆ スノーモビルの乗り方を学ぶ

スノーモビルに乗る前に、11 ページ以降に記載された使用前の点検を必ずおこなってください。
わずかな時間をスノーモビルの点検に費やすことで、安全性やスノーモビルの信頼性が高まります。ライダーの体温を保ち、また事故が起こった場合に怪我をしないように、常に適切な服装を着用してください。
たとえ充分なライディング経験があっても、スノーモビルをお買い求めの際にはまず低速運転から慣れてください。スノーモビルのハンドリングや性能特性を完全に把握するまでは、スノーモビルを最高性能で運転しないでください。
初心者ライダーは、広く平坦な雪上で、スノーモビルに慣れるようにしてください。
障害物がなく、他のスノーモビルなどが走行しない場所を選ぶようにしてください。スロットルとブレーキのコントロール方法を練習し、旋回の技術を習得してから、難易度の高い地形を走行するようにしてください。エンジンをかける時はあらかじめパーキングブレーキをかけ、16 ページの指示に従ってください。エンジンの暖気運転が完了すると、走行可能な状態になります。

◆ 発進、加速

1. エンジンをアイドリングさせたまま、パーキングブレーキを解除します。
2. スロットルをゆっくりとスムーズに開けます。
   V ベルトクラッチがつながり、発進して加速します。

⚠ 警 告

スノーモビルの始動時には、後ろに人が誰もいないことを確認してください。破損したトラックやトラック固定具、あるいは小石などがはねることがあり、危険です。

◆ ブレーキをかける

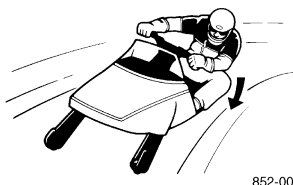
⚠ 警 告

- **氷や圧雪などでは、通常の雪面より停止距離がはるかに長くなります。注意を怠らず、先を見通して、早めに減速してください。**
- **ブレーキのかけ方が悪いとドライブトラックがトラクション（グリップ力）を失い、制御能力が低下し、事故を起こす可能性が高くります。**

減速または停止する時は、スロットルを放し、ブレーキを徐々にかけます。（急にかけてはいけません。）

◆ 曲がる

大部分の雪面では「体を使って」曲がることが大切です。
カーブに近づくに従って減速し、曲がりたい方向にハンドルバーを徐々に向けます。
同時に曲がる方向のフットレストに体重をかけ、上体を内側に傾けます。

852-001

障害物のない広い平らな場所で、この手順を低速で何度も練習してください。いったんこのテクニックが身についたら、もっと高速できついカーブでも応用できます。
スロットルの急な開閉、強すぎるブレーキ操作、間違った体の動かし方、カーブに対して速すぎる速度など、不適切な運転方法はスノーモビルの転倒の原因となります。
カーブでスノーモビルが転倒しかけたら、体をさらに内側に傾けてバランスを取り戻してください。必要ならゆっくりとスロットルを戻すか、ハンドルを外側に切ってください。

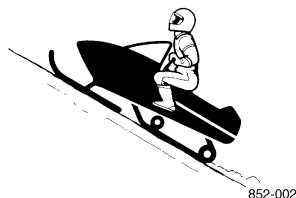
重要：
スノーモビルの運転を充分習熟するまでは、高速走行をしないでください。

◆ 斜面を上る

⚠ 警 告

斜面での運転は正しいテクニックを使わないと、コントロールを失うことがあります。事故のリスクを少なくするためにも、取扱説明書の指示に従ってください。
スキルが上達するまで難しい急な斜面では運転しないでください。

まず最初はゆるやかな斜面で練習します。スキルが上達して初めて、もっと難しい斜面を練習してください。斜面に近づくにつれて加速し、上りになる前にスロットルを戻してトラックのすべりを防止します。体重は常に斜面の上側に向けてかけておくことが大切です。体を前に傾けて斜面を真っ直ぐに上ります。斜面の勾配がきつくなったらフットレストに足を置いて立ち、ハンドルバーにかぶさるように体を前に倒します。（「斜面を横断する」も参照。）

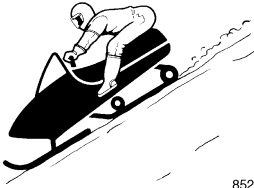
852-002

頂上に近づくにつれて減速し、頂上の向こう側に障害物、急な下り、他の乗り物や人を見つけた場合に備えます。途中で斜面を上れなくなったら、トラックをスピンさせてはいけません。エンジンを止め、パーキングブレーキをかけます。スノーモビルのリヤを引っぱって斜面の下側にスノーモビルを向けます。次いで斜面の上側からスノーモビルに乗ります。エンジンを再始動し、パーキングブレーキを解除し、斜面を下ります。

◆ 斜面を下る

⚠ 警 告

下りでブレーキをかける時には充分に注意してください。ブレーキを強くかけ過ぎるとドラ

イブトラックがロックし、制御不能になります。

斜面を下る時は最低速度を保ってください。下っている間クラッチをつないでおくために必要な量だけのスロットルを開けることが大切です。こうすればエンジンの圧縮行程がスノーモビルの減速に役立ち、またスノーモビルが惰性で斜面を下ることも防げます。またブレーキも軽く頻繁にかけてください。

852-003

◆ 斜面を横断する

⚠ 警 告

斜面を横断する場合は正しいテクニックを使わないと、コントロールを失うことがあります。事故のリスクを少なくするためにも、取扱説明書の指示に従ってください。ゆるやかな斜面でスキルが上達するまで、難しい急な斜面では運転しないでください。

斜面を横断するには、体重を適切な位置にかけ適切なバランスを保つ必要があります。斜面を横断する時は体重が斜面の上側にかかるように体を傾けます。斜面の下側に位置する膝をシートに置き、上側に位置する足をフットレストに置く姿勢がよいでしょう。こうすれば必要に応じて体重移動を楽におこなうことができます。

852-004

雪や氷は滑りやすいので、スノーモビルが横向きに滑った時に備えるようにしてください。そのような場合は、その先に障害物がなければ滑った方向にハンドルを切ります。適切なバランスに回復したら、ハンドルを徐々に元の方向に戻します。
曲がる時スノーモビルが転倒しかけた場合は、斜面の下側にハンドルを切ってバランスを取るようにしてください。

⚠ 警 告

バランスが保てずスノーモビルが転倒しかけた場合は、直ちにスノーモビルから体を離し、斜面の上側に避難してください。

◆ 氷の上、凍結面での運転

⚠ 警 告

氷の上または凍結面で運転しなければならない場合は、ゆっくりと慎重に走行してください。
急加速、急転回、急ブレーキは避けてください。ハンドルの動きは最小限にしてください。制御不能になり、転倒する危険があります。

氷の上や凍結面での運転は非常に危険になりがちです。転回、停止、発進のためのトラクションが雪よりはるかに小さいためです。

◆ 圧雪面での運転

圧雪の上は、新雪と比べスキーとドライブトラックのトラクションが小さくなるため操縦がより困難です。急加速、急転回、急ブレーキは避けてください。

◆ 雪、氷以外の表面上での運転

雪、氷以外の表面ではスノーモビルを運転しないでください。そのような条件下での運転はスキーランナー、ドライブトラック、スライドランナー、ドライブスプロケットを傷めたり摩耗を早めます。次のような表面でのスノーモビルの運転は決しておこなわないでください。

- 泥
- 砂
- 岩
- 草
- 雪のない路面

この他、次のような表面も、ドライブトラック、スライドランナーを長持ちさせるため運転を避けてください。

- 鏡面状凍結路面
- 多量の泥と砂が混ざった雪

上記の表面はみなドライブトラックとスライドランナーに関して一つの共通点があります。それは潤滑能力がほとんどない、あるいは全くない、ということです。ドライブトラックとスライドレール系全体はスライドランナーとスライドメタルとの間の潤滑（雪または水）を必要とします。潤滑がおこなわれないとスライドランナーは短期間で摩耗し、ひどい場合には溶けてなくなり、ドライブトラックに損傷や故障が発生します。

またトラクション増強のためのスタッドや滑り止めなども、トラックの損傷、故障をいっそうひどくする可能性があります。

⚠ 警 告

ドライブトラックが損傷・故障するとブレーキ能力が失われ、スノーモビルが制御できなくなり、事故を起こす恐れがあります。

- **スノーモビルを運転する時は必ず事前にドライブトラックを点検し、損傷、調整不良がないか調べてください。**
- **ドライブトラックが損傷していた場合はスノーモビルを運転しないでください。**

注 意

できるだけ新雪の上を走行するようにしてください。氷や圧雪の上で運転するとスライドランナーの摩耗が早くなります。

■ ドライブトラックを長持ちさせるには

◆ トラックのテンション（張力）

最初のならし運転の期間、新しいドライブトラックはなじむ過程で伸びが早くなりがちです。トラックのテンションとアライメントの調整を欠かさず頻繁におこなってください。（調整手順については、34 ページを参照。）緩んだトラックは（ドライブスプロケットとの間で）スリップし、外れ、あるいはサスペンション部品を噛み込み、重大な損傷をもたらす恐れがあります。ドライブトラックはきつく張り過ぎないでください。トラックとスライドランナーとの摩擦が増大し、両方の部品の摩耗が早まります。またサスペンション部品への負荷が過大になり、故障の原因となります。

◆ 雪が少ない場合

ドライブトラックとスライドランナーは雪と水で潤滑・冷却されます。これら部品の過熱を防ぐため、雪が極端に少ない凍結路や、凍結した湖、河で長時間高速走行することは避けてください。

トラックの内部が過熱によって弱くなり、故障や損傷の原因となります。

◆ オフトレール走行

積雪が充分でない限りオフトレール走行は避けてください。岩、倒木など、堆積物を充分に覆う走行面ができるには、一般に 1 メートル程の積雪が必要です。積雪が不充分な場合、ドライブトラックへの衝撃による損傷を防ぐためトレールの外を走行しないでください。

◆ スタッドトラック

スタッド付きのトラックは一般に短寿命です。ドライブトラックにスタッドホールを開けるため内部の繊維が切断され、トラックの強度が低下するためです。

ヤマハはトラックへのスタッド装着を推奨しません。

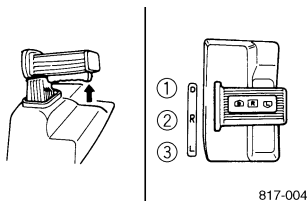
■ 走行

⚠ 警 告

スノーモビルを動かす前に必ず本書の 3 ページの「安全運転のために」と 18 ページの「スノーモビルに乗る」をよくお読みください。

要 点

スノーモビルを運転する前に、エンジンの暖機運転をおこなってください。

1. ドライブセレクトレバー下側のストッパーを引き、レバーを希望する作動位置にシフトします。

①“D”走行（前進）
②“R”後退
③“L”低速走行（前進）

警 告

- **シフト操作は必ず、スロットルレバーを完全に放しスノーモビルが完全に停止した状態でおこなってください。**
- **エンジンをアイドリング回転させた状態で、ドライブセレクトレバーが完全に止まるまで、前または後ろに動かしてください。**
- **走行スピードが50 km/hを超える場合は、“L”（低速走行）を使わないでください。**
- **後退時は、スノーモビルの後方に障害物がないことを確認してください。後方に注意してください。**
- **後退する時は速度を落とし、急転回を避けてください。**

要 点

ドライブセレクトレバーが“R”（後退）の時は、リバースブザーが鳴ります。

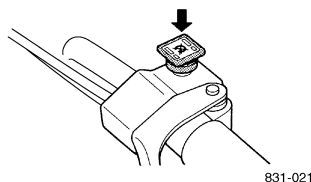
2. ブレーキレバーを握り、パーキングブレーキを解除します。
3. スロットルレバーをゆっくり押し込んで、スノーモビルを動かします。
4. 曲がりたい方向にハンドルを切ります。
5. スノーモビルを停止するには、ブレーキレバーを握ります。
6. ブレーキレバーを握り、パーキングブレーキボタンを押した状態でブレーキレバーを離し、パーキングブレーキを掛けます。

■ エンジン停止

エンジンを停止するには、メインスイッチをOFF（オフ）位置にしてください。

① OFF（オフ）位置

警 告

- **エンジンを緊急停止させるには、エンジン停止スイッチを押してください。**
- **スノーモビルから離れる場合は、必ずメインスイッチのキーを抜き、スノーモビルが誤って発進しないようにしてください。**

■ 輸送

スノーモビルをトレーラーやトラックで輸送する時は、損傷を避けるため次の注意事項を守ってください。

- 燃料タンク内の燃料残量は確実にキャブレタの底面より低くしてください。路面から伝わった振動やショックのため燃料がキャブレタからシリンダに流れ込むことがあります。その場合エンジン内にたまった燃料のためエンジンが始動できない「ハイドロロック」状態が生じます。ハイドロロックはエンジンに重大な損傷を引き起こす恐れがあります。できれば輸送中は、特に輸送時間が 30 分を超える場合は、燃料タンクを空にしてください。
- スノーモビルを幌のないトレーラーやトラックで輸送する場合、スノーモビルにカバーをかけしっかりと固定してください。カ

バーは専用設計のものが最善です。カバーをかければシュラウドの冷却用空気取り入れ口に異物が入らず、道路の小石がはねてスノーモビルを傷つけることも防げます。

- 道路に融雪剤が撒かれた区域を幌のないトレーラーやトラックで輸送する場合、オイルやその他防護剤を金属製サスペンションの表面に薄く塗ってください。腐食を防ぐ助けになります。目的地に着いたら必ずスノーモビルを洗浄し、腐食性の融雪剤をきれいに落としてください。

■ 定期点検チャート

最良の性能と安全な作動のためには、定期点検がもっとも重要です。

項目	点検内容	使用前の点検（毎日）	1ヵ月または800 km（40 時間）走行後	日常点検 シーズン毎または3,200 km（160 時間）走行後
スパークプラグ	状態を点検する。 スパークプラグギャップの調整と清掃。 必要に応じ交換する。			●
エンジンオイル	オイル量を点検する。	●		
	* 必要に応じオイルポンプのエア抜きをする。			●
* オイルフィルタ	状態を点検する。 必要に応じ交換する。			●
燃料	フューエルタンクの残量を点検する。	●		
* 燃料フィルタ	状態を点検する。 必要に応じ交換する。			●
* 燃料ライン	燃料ホースのひび割れ、損傷の有無を点検する。 必要に応じ交換する。			●
* オイルライン	オイルホースのひび割れ、損傷の有無を点検する。 必要に応じ交換する。			●
キャブレタ	スロットルレバーの作動を点検する。	●		
	* 燃料噴射量を調整する。	運転条件（標高、温度）が変わった時。		
* ファンベルト	摩耗や損傷の有無を点検する。 必要に応じ交換する。			●
	必要に応じファンベルトを調整する。			●
リコイルスタータ	作動状態とロープの損傷の有無を点検する。 * 必要に応じ交換する。	●		
エンジン停止スイッチ	作動を点検する。 * 必要に応じ修理する。	●		

* この点検項目はヤマハ販売店による整備を推奨します。

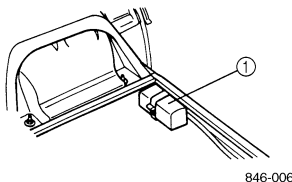
定期点検

項目	点検内容	使用前の点検（毎日）	1ヵ月または800 km（40 時間）走行後	日常点検 シーズン毎または3,200 km（160 時間）走行後
スロットルオーバーライドシステム (T.O.R.S.)	作動を点検する。 * 必要に応じ修理する。	●		
スロットルレバー	作動を点検する。 * 必要に応じ修理する。	●		
* 排気系統	漏れの有無を点検する。 必要に応じ、増し締めまたはガスケットを交換する。			●
* カーボン除去	必要に応じ随時。			●
ドライブガード	ひび割れ、曲げおよび損傷の有無を点検する。 * 必要に応じ交換する。	●		
V ベルト	摩耗や損傷の有無を点検する。必要に応じ交換する。	●		
ドライブトラック、アイドラーホイール	たわみ量、摩耗および損傷の有無を点検する。 * 必要に応じ調整／交換する。	●		
エクストロバートドライブスプロケット	摩耗や損傷の有無を点検する。 * 必要に応じ交換する。		●	●
スライドランナー	摩耗や損傷の有無を点検する。	●		
	* 必要に応じ交換する。			●
ブレーキ、パーキングブレーキ	作動を点検する。	●		
	* 遊びを調整し、必要に応じパッドを交換する。			●
ドライブチェーンオイル	オイル量を点検する。		●	
	* 交換する。		** ●	●
ドライブチェーン	たわみ量を点検する。 * 必要に応じて調整する。		●	●
スキー、スキーランナー	摩耗や損傷の有無を点検する。	●		
	* 必要に応じ交換する。			●

* この点検項目はヤマハ販売店による整備を推奨します。
** 1ヵ月または 400 km（20 時間）走行後

項目	点検内容	使用前の点検（毎日）	1ヵ月または 800 km（40 時間）走行後	日常点検
				シーズン毎または 3,200 km（160 時間）走行後
ステアリング系	作動を点検する。	●		
	* 必要に応じスキーのトーアウトを調整する。			●
ライト類	作動を点検する。 必要に応じバルブを交換する。	●		
バッテリ	バッテリの液量を点検する。補充が必要な場合、蒸留水のみを補充のこと。	●		
	* 比重とブリーザーホースの作動を点検する。必要に応じ充電／修理する。			●
*** プライマリークラッチ、セカンダリークラッチ**	つながり具合とシフト回転数を点検する。必要に応じて調整する。			●
		走行高度が変わった時。		
	シーブアセンブリの摩耗／損傷の有無を点検する。プライマリーのウェイト、ローラー、ブッシングの摩耗を点検する。 セカンダリーのランプシューズ、ブッシングの摩耗を点検する。必要に応じ交換する。			●
	指定グリースを給脂する。			●
*** スキー、フロントサスペンション**	指定グリースを給脂する。			●
*** サスペンションコンポーネント**	指定グリースを給脂する。			●
*** ブレーキケーブル先端／レバー先端／スロットルケーブル先端**	指定グリースを給脂する。			●
	ケーブルの損傷の有無を点検する。 必要に応じ交換する。			●
シュラウドラッチ	シュラウドラッチがかかっているか確認する。	●		
取付金具、ボルト類	締め付け状態を点検する。 * 必要に応じ修理する。	●		
ツールキットと推奨装備	適切な位置に収納されているか点検する。	●		

* この点検項目はヤマハ販売店による整備を推奨します。

■ ツールキット
ユーザー用ツールキットには、通常の定期点検や簡単な修理に十分な工具類が入っています。この他に、ナットやボルトを正しいトルクで締め付けるためにトルクレンチも必要です。

① ツールキット

注 意

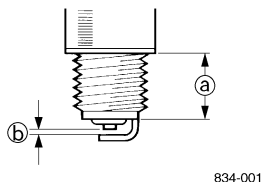
エンジンを始動する前に、ツールキットがホルダにきちんと納められ、バンドで確実に固定されていることを確認してください。

要 点

トルクレンチが必要な整備をトルクレンチなしでおこなった場合は、整備後にスノーモビルをヤマハ販売店に持ち込んでトルク点検を依頼し、必要ならトルクの調整を依頼してください。

■ スパークプラグの点検
スパークプラグは重要なエンジン部品ですが、簡単に点検することができます。スパークプラグの状態はエンジンの状態を示します。
中心の電極を取り囲む白い磁器製の絶縁体の変色を点検してください。正常に運転されているスノーモビルなら、中程度～薄い小麦色が理想的な色です。これとは明らかに違う色だったら、エンジンに何らかの異常があると考えられます。
例えば絶縁体が白すぎる場合は混合気が薄すぎる等の問題が考えられます。これらの問題はご自身で判断せず、スノーモビルをヤマハ販売店に持ち込んで検査を、そして場合によっては修理を受けてください。
スパークプラグは熱と堆積物によって徐々に壊れ溶けて行きますので、定期的に取り外して点検してください。スパークプラグを別のタイプに変える場合はヤマハ販売店にご相談ください。

指定スパークプラグ：
BR9ES (NGK)

スパークプラグにはねじ山部分の長さが異なる何種類かがあります。ねじ山の長さ、つまりリーチは、スパークプラグガスケットシートからねじ山部分末端までの長さを表します。リーチが長すぎるとエンジンがオーバーヒートしたり損傷したりする恐れがあります。リーチが短すぎるとスパークプラグが汚れたりエンジン性能が低下する可能性があります。また露出したねじ山部にカーボンが付着して燃焼室にホットスポットを形成し、ねじ山を損傷します。スパークプラグは必ず指定されたリーチのものを使用してください。

スパークプラグのリーチ ⓐ：
19.0 mm

スパークプラグを取り付ける時はシックネスゲージで電極ギャップを測定し、指定の数値に調整してください。

スパークプラグのギャップ ⓑ：
0.7 ～ 0.8 mm

またスパークプラグを取り付ける時は必ずガスケット面を清掃してください。ねじ山に汚れがついていたら拭き取り、指定トルクでプラグを締め付けてください。

スパークプラグの締め付けトルク：
20 Nm (2.0 m·kgf)

■ エンジンのアイドリング回転数の調整

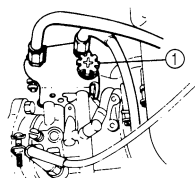
注 意

- **この調整は必ずヤマハ販売店に依頼してください。**
- **スロットルレバーがスムーズに動くことを確認してください。**

1. エンジンを始動します。

要 点

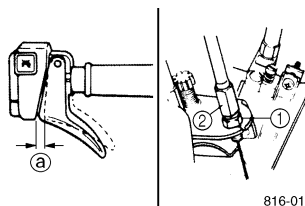
16 ページの「エンジンの始動」を参照してください。

2. スロットルストップスクリュー ① を締めるか、または緩めて、エンジンのアイドリング回転数を調整します。

標準のエンジンアイドリング回転数： 1,200 ± 100 r/min

■ スロットルレバーの調整

注 意

最初に、エンジンのアイドリング回転数を調整してください。

1. ロックナットを緩めます。
2. スロットルレバーが指定された遊びになるまで、アジャスタを締めるか緩めて調整します。

① ロックナット
② アジャスタ

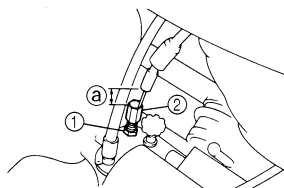
スロットルレバーの遊び ⓐ： 1.0 ～ 2.0 mm

3. ロックナットを締め付けます。

■ オイルポンプケーブルの調整

注 意

最初に、スロットルレバーを調整してください。

1. ロックナットを緩めます。
2. オイルポンプアウターケーブルを引き、アジャスタを回して、アジャスタとアウターケーブル間の遊びを調整します。

① ロックナット
② アジャスタ

オイルポンプケーブルの遊び ⓐ： 25 ± 1 mm

3. ロックナットを締め付けます。

■ キャブレタの調整

注 意

- **この調整はヤマハ販売店に依頼をお勧めします。**
- **エンジンの損傷を防ぐために、スノーモビルを運転する前にキャブレタサイレンサが取り付けられていることを確認してください。**

運転条件によっては、気温の変化、高度の変化などによりキャブレタ設定の変更が必要な場合があります。設定はヤマハ販売店でおこなうようにしてください。

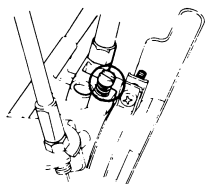
注 意

900 m より高い標高で運転する場合は、ドライブチェーンのギアとVベルトクラッチの調整が必要です。これについてはヤマハ販売店にご相談ください。

◆ パイロットスクリュの調整

パイロットスクリュを締めるか、または緩めて、低速エンジン回転数を調整してください。

パイロットスクリュの標準位置：
締め込んだ位置から 1 と 1/4 回転戻し

804-017

パイロットスクリュ	混合気	条件
締め込む	薄くなる	気温が高い場合
		標高が高い場合
緩める	濃くなる	気温が低い場合
		標高が低い場合

◆ メインジェットの交換

設定チャート（ヤマハ販売店で入手できます）に従って、メインジェットを交換して下さい。

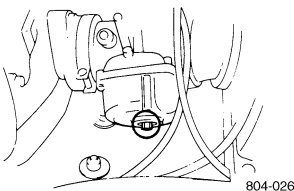
⚠ 警 告

- **エンジンが高温状態の時は、ドレンプラグやフロートチャンバーを決して取り外さないでください。もし取り外すと、燃料がフロートチャンバーから噴き出して発火したり、火傷する恐れがあります。**
- **ドレンプラグやフロートチャンバーを取り外す前に、こぼれた燃料を受けるために、キャブレタの下にウエスを敷いてください。**
- **燃料は引火性が高いので注意して取り扱ってください。**

標準のメインジェット：
#141.3

メインジェット	混合気	条件
小さい数字	薄くなる	気温が高い場合
		標高が高い場合
大きい数字	濃くなる	気温が低い場合
		標高が低い場合

1. キャブレタクランプを緩め、フロートチャンバーにアクセスできるようにキャブレタを回転させます。
2. 燃料ホースを挟んで、燃料の流れを止めます。
3. フロートチャンバーのドレンプラグを取り外し、運転条件に合ったメインジェットを取り付けます。
4. 上記の取外し手順を逆におこなって組み立てます。

804-026

⚠ 警 告

キャブレタの組立て後、スロットルアウターケーブルがホルダに確実に固定され、スロットルがスムーズに動くことを確認してください。

■ 標高の高い場所で走行する場合の設定

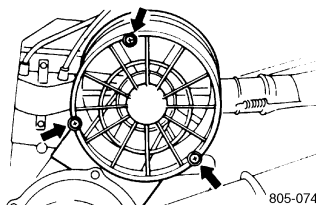
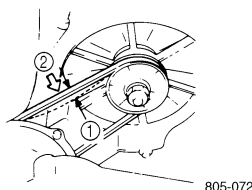
ガソリンエンジンは標高がおよそ300 m上がる毎に、性能が約 3 % 低下します。これは標高が高くなるにつれ空気が薄くなるためです。空気が薄くなれば燃焼に必要な酸素も少なくなります。
このスノーモビルは、標高の高い場所での走行で生じる問題のほとんどを克服するよう、調整が可能です。最も重要なものはキャブレタ調整です。高い標高で空気が薄くなると燃料・空気の混合比が濃くなり過ぎ、エンジン性能が低下します。このため一般に、始動困難、エンジン回転不調、プラグの汚れが生じます。メインジェット設定チャート（ヤマハ販売店で入手できます）に従って作業して下さい。適切なキャブレタ設定により混合比を適正にすることができます。

重要：
空気が薄く標高が高くなると、適切なキャブレタ設定をおこなっても馬力が低下します。加速も最高速度も低下すると考えてください。
標高の高いところでの馬力低下を克服するため、さらにドライブチェーンギアと V ベルトクラッチの調整を変更し、性能低下と急速な摩耗を回避することが必要なこともあります。スノーモビルをお買い求めの場所とは標高が異なる場所で運転する場合は、必ずヤマハ販売店にご相談ください。その標高のために何らかの変更が必要かどうか、ヤマハ販売店から説明があります。

注 意

900 m より高い標高で運転する場合は、ドライブチェーンのギアとVベルトクラッチの調整が必要です。これについてはヤマハ販売店にご相談ください。

■ ファンベルトのたわみ量の点検

1. スクリューとボルトを取り外し、ファンベルトカバーを取り外します。

2. ファンベルトの中央位置に 50 N (5 kgf) の力を加えて、ファンベルトのたわみ量を測定します。

① たわみ量
② 50 N (5 kgf)

ベルトの標準たわみ量： 8 mm / 50 N (5 kgf)

3. スクリューとボルトを締め付け、ファンベルトカバーを取り付けます。
   たわみ量が規定値を超える場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

■ V ベルトの交換

⚠ 警 告

- **V ベルトを交換する時は、セカンダリーフィクストシーブとセカンダリースライディングシーブの間に、2 つのスペーサ ① が取り付けられていることを確認してください。スペーサが正しく取り付けられていない場合、クラッチイン回転数が変化し、エンジンを始動した時にスノーモビルが予期しない動きをする恐れがあります。**
- **Vベルトの交換、およびセカンダリーフィクストシーブ～セカンダリースライディングシーブ間のギャップ調整は、ヤマハ販売店に依頼してください。シーブの取外し時にスプリン**

グの張力が急激に開放され、大けがの原因になる恐れがあります。

805-030

注 意

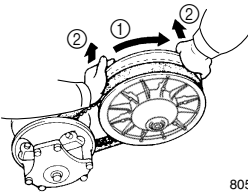
V ベルトが摩耗した場合でも適切なクラッチ性能を確保するために、スペーサの位置を変えて、セカンダリーフィクストシーブ～セカンダリースライディングシーブ間のギャップを調整する必要があります。この調整はヤマハ販売店に依頼してください。

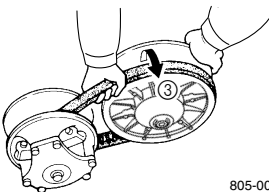
ベルトの幅	34.5 mm	33.5 mm	32.5 mm
スペーサの位置			
	シーブ間にスペーサ 2 個	シーブ間にスペーサ 1 個	シーブ間にスペーサ無し

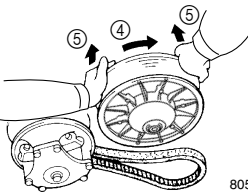
新しいベルトの幅	34.5 mm
ベルトの摩耗限度幅	32.5 mm

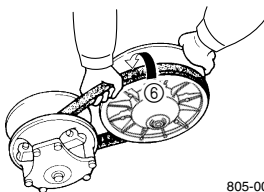
要 点

V ベルトを交換する時はあらかじめパーキングブレーキをかけてください。

1. ドライブガードを取り外します。
2. セカンダリースライディングシーブを右回り（時計回り）① に回し、セカンダリーフィクストシーブから分離するよう押し出します ②。

805-002

3. V ベルトを引っ張り上げて ③、セカンダリーフィクストシーブから取り外します。

805-003

4. V ベルトをセカンダリー、プライマリー両方のシーブアセンブリから取り外します。
5. 新しい V ベルトをプライマリーシーブアセンブリに取り付けます。
6. セカンダリースライディングシーブを右回り（時計回り）④ に回し、セカンダリーフィクストシーブから分離するよう押し出します ⑤。

805-004

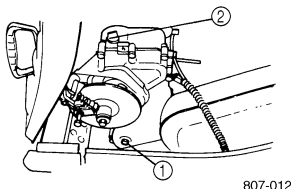
7. V ベルト ⑥ をセカンダリースライディングシーブとフィクストシーブの間に取り付けます。

8. ドライブガードを取り付けます。

⚠警 告

V ベルトやドライブガードを外した状態では、決してエンジンを回転させないでください。

■ ドライブチェーンハウジングのオイル量、およびドライブチェーンの張力の点検

◆ オイル量の点検

1. オイルレベルチェックボルト ① とフィラーキャップ ② を取り外して、オイルレベルを点検します。オイルレベル点検孔から少量のオイルが流れ出していれば正常です。

2. オイルレベル点検孔からオイルが流れ出ていない場合は、点検孔からオイルが流れ出すまでドライブチェーンオイルを補充します。

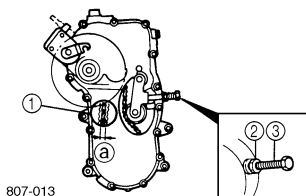
推奨ドライブチェーンオイル：
SAE 75W または 80W API GL-3 ギヤオイル

注 意

ドライブチェーンハウジングに異物が入らないようにしてください。

3. フィラーキャップの O リングと、オイルレベルチェックボルトのガスケットを点検します。
   損傷している場合は、交換します。
4. オイルレベルチェックボルトとフィラーキャップを取り付けます。

◆ チェーンの張力の調整

1. チェックホールキャップを外し、チェーンを指で押してチェーンのたわみ量を測定します。

① チェックホールキャップ
② ロックナット
③ 調整ボルト

ドライブチェーンの標準たわみ量 ⓐ：
8 ～ 15 mm

たわみ量が指定の値を超える場合は、チェーンの張力を調整してください。

2. ロックナットを緩めます。
3. 調整ボルトを回して、チェーンのたわみ量を正しい値にします。
4. ロックナットを締め付けます。
5. チェックホールキャップを取り付けます。

■ ブレーキパッドの点検

各ブレーキパッドの厚さを測定して、ブレーキパッドの摩耗の程度を点検してください。
ブレーキパッドが摩耗限度に達している場合は、ヤマハ販売店に交換を依頼してください。

818-028

摩耗限度 ⓐ： 10 mm

◆ **調整**
このスノーモビルにはセルフアジャスティング式のブレーキキャリパーが搭載されています。通常の使用条件では、ブレーキキャリパーの調整は不要です。ブレーキレバーの遊びが大きすぎるか、または小さすぎると感じる場合は、ブレーキシステムの点検が必要です。

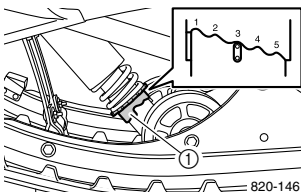
⚠ 警 告

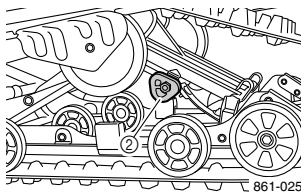
ブレーキシステムの点検は、必ずヤマハ販売店に依頼してください。

■ サスペンション
サスペンションはライダーの好みに応じて調整することができます。たとえば軟らかい設定にすると乗り心地がよくなり、固い設定にすると特定のタイプの地形や走行条件でハンドリングや制御がいっそう正確におこなえるようになります。

⚠ 警 告

この調整は必ずヤマハ販売店に依頼してください。

◆ **スプリングのプリロード調整**
スプリングプリロードはセンターショックアブソーバの調整リング ① とリヤトーションスプリングのスプリングプリロードアジャスタ ② を回して調整することができます。

820-146

調整リングの位置	1	2	3	4	5
プリロード	ソフト				ハード
標準位置（センター）	3				

861-025

アジャスタの位置	S	M	H
プリロード	ソフト	ミディアム	ハード
標準位置（リヤ）	S		

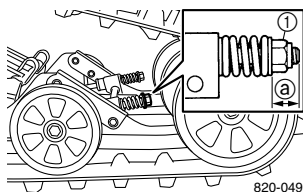
⚠ 警 告

当ショックアブソーバには高圧の窒素ガスが封入されています。誤った使い方をすると、破裂して、負傷や物的な損害を引き起こす恐れがあります。
- **ショックアブソーバを開けたり、改造しないでください。**
- **ショックアブソーバを火中に投じたり、高温の熱源に近づけないでください。爆発する恐れがあります。**
- **ショックアブソーバを変形させたり、損傷を与えないようにしてください。**
- **摩耗したり損傷したショックアブソーバは、ユーザご自身で廃棄せず、ヤマハ販売店にお持ちください。**

◆ エクステンションスプリングのプリロード調整

⚠ 警 告

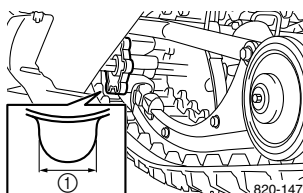
左右のエクステンションスプリングのプリロードは、同一調整値にしなければなりません。同一でなかった場合、安定性が失われる恐れがあります。

調整ナット ① を回して、エクステンションスプリングのプリロードを調整してください。

調整ナット	締め込む	緩める
プリロード	ハードになる	ソフトになる
雪面の状態	氷状	柔らかい
プリロード 設定 ⓐ：	最小位置（ソフト）：13 mm 標準位置：　13 mm 最大位置（ハード）：15 mm	

■ エクストロバートドライブスプロケット

エクストロバートドライブスプロケットに摩耗や損傷がないか点検してください。必要に応じて交換してください。

◆ エクストロバートドライブスプロケットの点検

ドライブスプロケットの歯の幅 ① を測定します。歯の幅が 28 mm 以下の場合は、エクストロバートドライブスプロケットを交換します。

■ ドライブトラックの調整

⚠ 警 告

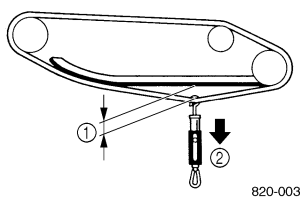
破損したトラックやトラック固定具、あるいはトラックがはね上げた小石は、運転者や同乗者に危険を及ぼす恐れがあります。次の注意事項を守ってください。

- **エンジンが動いている時は、スノーモビルの後ろにだれも立ち入らせないでください。**
- **ドライブトラックを回転させるためスノーモビルのリヤを持ち上げる場合は、適切なスタンドを使用してスノーモビルのリヤ側を支えてください。ドライブトラックを回転させる時、絶対に手でスノーモビルのリヤを持ち上げないでください。回転しているドライブトラックには絶対に人を近づけないでください。**
- **ドライブトラックの状態は頻繁に点検してください。損傷したスライドメタルは交換してください。ドライブトラックの中の繊維性強化材が見える程深く損傷したら、あるいはサポートロッドが破損したら、ドライブトラックは交換してください。損傷・故障したトラックではブレーキ能力が失われ、スノーモビルが制御できなくなり、事故を起こす恐れがあります。**

◆ ドライブトラックのたわみ量の測定

1. スノーモビルを横に寝かせます。
2. スプリングスケールでドライブトラックのたわみ量を測定します。ドライブトラックの中央を 100 N (10 kgf) の力で引っ張ってください。

要　点

スライドランナーとトラックウィンドウのエッジとの間のギャップを測定してください。左右両側で測定してください。

① たわみ量
② 100 N (10 kgf)

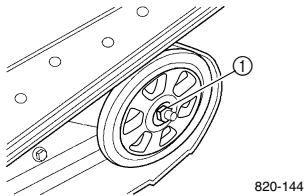
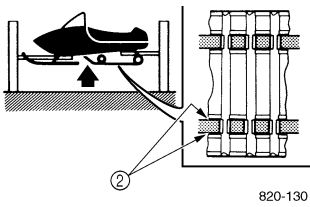
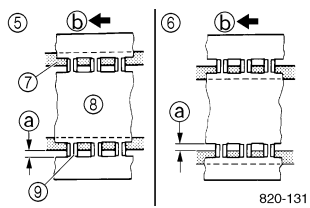
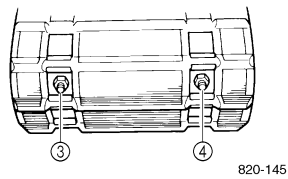
ドライブトラックの標準たわみ量： 30.0 ～ 35.0 mm /100 N (10 kgf)

3. たわみ量が標準範囲外の場合は、ドライブトラックを調整してください。

◆ ドライブトラックのアライメントとたわみ量の調整

⚠ 警 告

- **この調整は必ずヤマハ販売店に依頼してください。**
- **スノーモビルの下側の作業をおこなう時は、あらかじめ適切なスタンドでスノーモビルをしっかりと支えてください。**
- **エンジンは充分に換気されている場所で回してください。**

1. リヤアクスルナット ① を緩めます。

2. スノーモビルのリヤを持ち上げて適切なスタンドに載せ、ドライブトラックを地面から離します。
3. エンジンを始動し、ドライブトラックを 1、2 回転させ、エンジンを止めます。
4. ドライブトラックとスライドランナー ② とのアライメントを点検してください。アライメントが異常の場合は、左右のアジャスタを回してドライブトラックのアライメントを適正にします。

ドライブトラックのアライメント	⑤ 右に寄っている場合	⑥ 左に寄っている場合
③ 左側のアジャスタ	緩める	締め込む
④ 右側のアジャスタ	締め込む	緩める

⑦ スライドランナー
⑧ ドライブトラック
⑨ スライドメタル
ⓐ ギャップ
ⓑ 前進方向

5. ドライブトラックのたわみ量を仕様に合わせて調整します。

ドライブトラックのたわみ量	指定値を超過	指定値に不足
③ 左側のアジャスタ	締め込む	緩める
④ 右側のアジャスタ	締め込む	緩める

注 意

左右のアジャスタは同じ量だけ回してください。

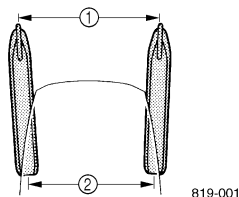
6. アライメントとたわみ量を再度点検します。必要ならば調整が適正になるまでステップ 3 ～ 5 を繰り返します。
7. スノーモビルを地面に下ろします。
8. リヤアクスルナットを締め付けます。

リヤアクスルナットの締め付けトルク：
75 Nm (7.5 m·kgf)

■ スキーのアライメント調整

1. ハンドルバーを操作してスキーをまっすぐ前方に向けます。
2. 次の点検をおこなってスキーのアライメントを調べます。

a. スキーは前方を向いているか。
b. スキーのトーアウト (① − ②) が指定範囲内か。

819-001

スキーのトーアウト (① − ②)：
0 ～ 15 mm

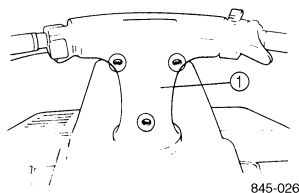
要 点

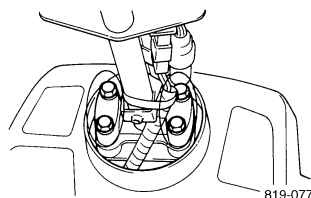
各スキーの先端を内側いっぱいに向けた状態で、調整や測定をおこなってください。

3. アライメント不良の場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

■ ハンドルバーの調整

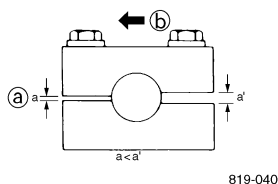
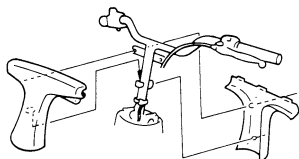
1. ハンドルバーカバー ① を取り外します。

845-026

2. ハンドルバーボルトを緩めます。ハンドルバーを前後に動かし、ちょうど良い高さに調整します。

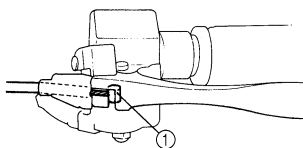
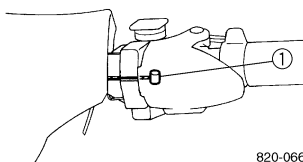
819-077

3. ハンドルバーボルトを締め付け、ハンドルバーカバーを取り付けます。

注 意

必ずハンドルバーホルダのギャップの小さい側 ⓐ が、車体前側 ⓑ に来るようにしてください。

819-040

ハンドルバーボルトの締め付けトルク：
14 Nm (1.4 m·kgf)

■ 給脂

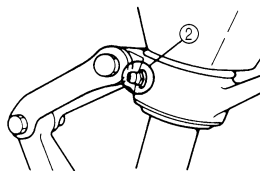
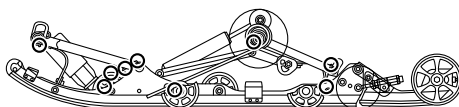
以下の各ポイントに給脂してください。

潤滑油：低温用グリース

① ブレーキ／スロットルケーブル先端

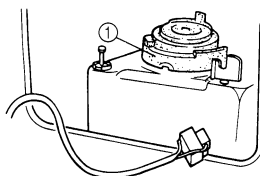
警 告

グリースは、ケーブルの先端だけに塗布してください。ブレーキおよびスロットルケーブル自体にはグリースを塗布しないでください。ケーブルが凍結して制御不能になることがあります。

② フロントサスペンション

③

③ リヤサスペンション

■ ヘッドライトバルブの交換

1. シュラウドを持ち上げます。
2. リードカプラの接続を外します。
3. ソケットカバーとバルブセットスプリングを取り外します。

① ソケットカバー

4. バルブを取り外します。

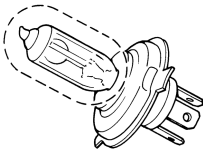
警 告

熱いバルブが冷えるまで、引火性の製品や手が触れないようにしてください。

5. 新しいバルブを取り付けます。

バルブのタイプ：12 V、60/55 W

注 意

バルブのガラス部分にはオイルや手を接触させないでください。バルブの寿命が縮まり、照度も影響を受けます。
ガラス部分に油脂が付着した場合、アルコールまたはラッカーシンナーをつけた布できれいに拭き取ってください。

832-007a

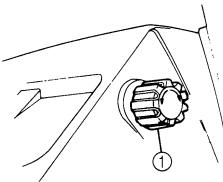
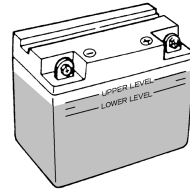
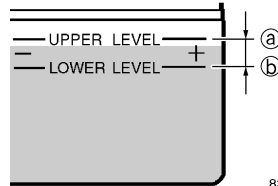
6. スプリングをセットし、ソケットカバーを取り付けてから、リードカプラを接続します。
7. シュラウドを元の位置に戻します。

■ ヘッドライトビームの調整

1. ヘッドライトビームアジャスタ ① を回して、ヘッドライトビームを調整します。

832-017

■ バッテリ

◆ バッテリ液の補充

1. バッテリの液量を点検します。バッテリ液の液面が、上側レベルと下側レベルのマークの間でなければなりません。

830-007

830-009

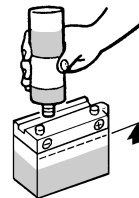
ⓐ 上側レベル
ⓑ 下側レベル

2. 補充が必要な場合は、蒸留水のみを補充します。

注 意

通常の水道水には、バッテリに有害なミネラル分（無機化合物）が含まれているため、補充する場合は蒸留水のみを使用してください。

830-005

⚠ 警 告

バッテリでおこなわれる電気分解は有毒であり危険です。バッテリには硫酸が含まれており、重度の火傷を引き起こす恐れがあります。皮膚、目、衣服を接触させないでください。
接触した場合の処置：
- **体外：水洗いします。**
- **体内：大量の水またはミルクを飲みます。続いてマグネシアミルク、溶き卵、或いは植物**

性の油を飲みます。すぐに医師の診察を受けてください。

- **目：15 分間水洗いし、すぐに医師の診察を受けてください。**

バッテリは爆発性のガスを排出します。火花、火炎、たばこなどを近づけないでください。充電中あるいは密閉されたスペースで使用中は充分換気をおこなってください。バッテリの近くで作業する時は必ず目を保護してください。子供を近づけないでください。

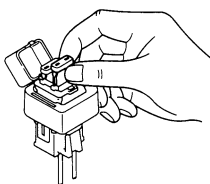
■ ヒューズの交換

警 告

必ず指定のヒューズを使ってください。指定外のヒューズを使った場合、電気系が損傷し、火災の危険が生じます。

注 意

誤ってショートすることがないように、メインスイッチがオフになっていることを確認してください。

1. シュラウドを持ち上げます。
2. 切れたヒューズを、適正アンペアのヒューズと交換します。

835-003

要　点

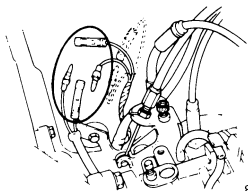
交換したヒューズが再びすぐに切れる場合は、ヤマハ販売店にスノーモビルの点検を依頼してください。

ヒューズのタイプ：10 A

3. シュラウドを元の位置に戻します。

A. エンジンは回るが始動しない。

1. 燃料系統
   燃焼室に燃料が供給されない。
   - タンクにガソリンがない ... 燃料を補給する。
   - 燃料系統の詰まり ... 燃料系統を清掃する。
   - キャブレタの目詰まり ... キャブレタを清掃する。

   燃焼室に燃料が供給される。
   - エンジン内の燃料過多（チョーク過剰）... スロットルを開けてエンジンを回転させる。またはスパークプラグを拭いて乾かす。
2. 電気系統
   スパークプラグの火花が弱いまたは無い。
   - スパークプラグがカーボンで汚れている、あるいは湿っている ... カーボンを除去する、またはスパークプラグを拭いて乾かす。必要に応じ交換する。
   - 点火系統の故障 ... ヤマハ販売店に点検を依頼する。
   - T.O.R.S. 系の不具合 ... キャブレタスイッチのコネクタを外し、ワイヤーハーネスのコネクタを一緒に接続して T.O.R.S. をバイパスさせる。

警 告

- **T.O.R.S. をバイパスする前に、必ずスロットルを全閉位置に確実に戻しておいてください。**
- **T.O.R.S. は重要安全部品です。不具合があったらすぐにスノーモビルをヤマハ販売店に持ち込んで修理を依頼してください。**

3. 圧縮
   不充分な場合
   - シリンダヘッドナットの緩み ... ナットを正しく締め付ける。
   - ガスケットの摩耗または損傷 ... ガスケットを交換する。
   - ピストンとシリンダの摩耗または損傷 ... ヤマハ販売店に点検を依頼する。

B. リコイルスタータで、エンジンが始動しない。

1. エンジンの焼きつき ... 潤滑不足、不適切な燃料、またはエア漏れのため焼きつきが発生。ヤマハ販売店に点検を依頼する。
2. スノーモビルの輸送中シリンダに燃料が溢れたため「ハイドロロック」が発生 ... スパークプラグを抜き、点火をオフにしてエンジンを何回か回転させ、余分な燃料を吐き出させる。ヤマハ販売店に点検を依頼する。

C. 電動スタータが作動しない、または回転が遅い

1. ワイヤー接続の不具合 ... 接続を点検、またはヤマハ販売店に点検を依頼する。
2. バッテリ上がり ... バッテリ液のレベルを点検し、バッテリを充電する。
3. エンジントラブル ... 前述のBを点検する。

D. エンジン出力が低い

1. スパークプラグの不具合 ... スパークプラグを清掃または交換する。
2. 標高または温度にキャブレタジェットが不適合 ... ヤマハ販売店に点検を依頼する。
3. 燃料フローの異常 ... 前述の A.1 を参照。
4. 標高または諸条件に V ベルトクラッチの設定が不適切 ... ヤマハ販売店に点検を依頼する。

E. エンジンがいつもバックファイヤを起こす、または失火する

1. スパークプラグの不具合 ... スパークプラグを交換する。
2. 燃料系統の目詰まり ... 前述の A.1 を参照。
3. T.O.R.S. 系の不具合 ... 前述の A.2 を参照。

F. スノーモビルが動かない

1. V ベルトクラッチの不具合 ... ヤマハ販売店に点検を依頼する。

2. ドライブトラックが動かない ... ドライブトラックの異物噛み込み、または潤滑不足のためスライドランナーがスライドメタルに溶着。
3. ドライブチェーンがきつい、緩い、または破損 ... ヤマハ販売店に点検を依頼する。

G. V ベルトのねじれ
1. V ベルトの不良 ... 正常な V ベルトと交換する。
2. Vベルトクラッチのオフセットが不適正... ヤマハ販売店に点検を依頼する。
3. エンジンマウントの緩み、破損 ... ヤマハ販売店に点検を依頼する。

H. V ベルトの滑り、または異常な加熱
1. V　ベルトまたはプライマリー／セカンダリーシーブアセンブリにオイルまたは汚れが付着 ... 清掃する。
2. ドライブラインに問題あり ... 前述の G を参照。

I. シフトアップ、シフトダウンがうまく行かない、またはシフトした時ショックがある
1. V ベルトの摩耗または損傷 ... V ベルトを交換する、またはヤマハ販売店に点検を依頼する。
2. 標高または諸条件に V ベルトクラッチの設定が不適切 ... ヤマハ販売店に点検を依頼する。
3. プライマリーシーブアセンブリの摩耗または固着 ... ヤマハ販売店に点検を依頼する。
4. セカンダリーシーブアセンブリの摩耗または固着 ... ヤマハ販売店に点検を依頼する。

J. ドライブチェーンとスプロケットのノイズまたは大きな振動
1. V ベルトクラッチ部品の破損 ... ヤマハ販売店に点検を依頼する。
2. ベアリングの摩耗または損傷 ... ヤマハ販売店に点検を依頼する。
3. V ベルトの摩耗または損傷 ... 交換する。
4. アイドラーホイールまたはシャフトの摩耗または損傷 ... ヤマハ販売店に点検を依頼する。
5. ドライブトラックの摩耗または損傷 ... ヤマハ販売店に点検を依頼する。

スノーモビルを長期間保管する時は、劣化防止のため何らかの予防措置が必要です。

■ エンジン

1. すべてのスパークプラグを外し、スプーン一杯程度のオートルーブスーパーオイル、SAE 20W40 または 10W30 のエンジンオイルをスパークプラグの孔に注ぎ、スパークプラグを取り付けます。（スパークプラグリード線を外して、アースした状態で）手動（または電動）でエンジンを数回回転させて、シリンダの壁面にオイルを付着させます。

■ 燃料の抜き取り

燃料タンクとキャブレタフロートチャンバーから燃料を抜き取ります。

■ シャーシ

1. 指定給脂箇所すべてにグリースを給脂します。（詳細は 37 ページを参照。）
2. ドライブトラックを緩め、シャーシをブロックの上に載せ、トラックを地上から離します。
3. スノーモビルの外装を清掃し、防錆剤を塗布します。
4. 乾燥し通気がよい場所に、カバーをかけてスノーモビルを保管してください。
5. 保管、輸送する時、スノーモビルを斜めにしないでください。

注 意

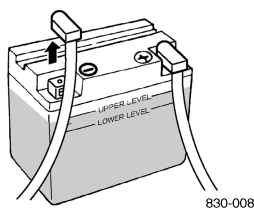
- **誤ったお手入れ方法はシュラウド、カバー、ウインドシールド、ヘッドライト、メーター等のプラスチック部にダメージを与えます。柔らかい布または中性洗剤を含んだスポンジで汚れをとってください。**
- **プラスチックの部分には強い薬品を使わないでください。研磨剤、溶剤やシンナー、ガソリン、錆取り、ブレーキ液、不凍液、電解液がついた布やスポンジで拭かないでください。**
- **高圧洗車やスチーム洗車は水入りの原因となり、以下の部位にダメージを与えます：シール部（スライドレールサスペンション、フロントサスペンション、ブレーキ）、電装系統（カプラー、コネクター、計器、スイッチ、ライト）、排気口等。**
- **ウインドシールドのあるスノーモビルの場合：強力な洗剤や硬いスポンジでのお手入れは、傷がつくので避けてください。プラスチッククリーナーの中にも傷がつくものがあります。小さな見えにくい部分でまず試してください。ウインドシールドに傷がついた場合は、洗車後に質のよいプラスチック用のワックスを使用してください。**

■ バッテリ

1. バッテリを取り外し、バッテリ液のレベルを点検します。（作業内容は、38 ページの「バッテリ液の補充」の指示に従ってください。）
2. バッテリ液のレベルを点検した後、バッテリをフル充電します。
3. バッテリは乾燥した場所に保管し、1ヵ月に 1 回の頻度で充電します。

バッテリを極端に暑い場所や寒い場所（たとえば 0 ℃以下の場所や 30 ℃以上の場所）で保管しないでください。バッテリを取り付ける前に、ヤマハ販売店に点検とフル充電を依頼してください。

⚠ 警 告

- **バッテリからリード線を外す時は、まずマイナス側、次いでプラス側を外してください。**
- **バッテリを取り付ける時は、まずプラス側、次いでマイナス側のリード線をバッテリに接続してください。**

仕様諸元

寸法
全長
3055 mm
全幅
1190 mm
全高
1355 mm
重量
車両重量
313.0 kg
スキー間距離
960 mm
エンジン
エンジン型式
空冷 2 ストローク
気筒数・配列
直列 2 気筒
総排気量
535 cm^3
内径×行程
73.0×64.0 mm
アイドリング回転数
1100 〜 1300 r/min
エンジンオイル
推奨ブランド
オートルーブスーパーオイル
キャブレタ
メーカー型式×数量
B38-34×1
燃料
種類
無鉛レギュラーガソリン
リサーチオクタン価
91
始動方式
セル、リコイルスターター
車体
トラック
材質
補強入りラバー
トラックタイプ
エクストロバートドライブタイプ
幅
500 mm
たわみ量
30.0 〜 35.0 mm
接地長
1128 mm
リヤサスペンション
型式
スライドレールサスペンション

トラックスプロケットホイール
材質
ポリエチレン
歯数
7
トランスミッション
クラッチ型式
自動遠心クラッチ
総減速比
8.02 〜 2.01 :1
シーブ軸間距離
267.0 〜 270.0 mm
シーブオフセット
14.5 〜 17.5 mm
クラッチイン回転数
2400 〜 2800 r/min
シフト回転数
6400 〜 7000 r/min
ドライブチェーンタイプ
トリプルローラーチェーン
後進装置
有
一次減速比
3.80 〜 0.95 :1
二次減速比 [D]
38/18 (2.11)
二次減速比 [L]
28/22×28/22×38/18 (3.42)
ドライブチェーンハウジングオイル
種類
SAE 75W または 80W API GL-3 ギヤオイル
容量
0.35 L
燃料タンク容量
31.0 L
エンジンオイルタンク容量
2.5 L
ブレーキ
ブレーキ型式
ディスクブレーキ
操作方法
ハンドルレバー、左手操作
スロットル
操作方法
ハンドルレバー、右手操作

電装

点火装置
C.D.I.

スパークプラグ
メーカー
NGK

型式
BR9ES

プラグギャップ
0.7 ～ 0.8 mm

バッテリ
バッテリ型式
YB16AL-A2

バッテリ容量
12 V, 16.0 Ah

10 時間率電流
1.6 A

バルブワット数 × 数量
ヘッドライト
12 V, 60/55 W × 1

ヘッドライトバルブタイプ
ハロゲンバルブ

テール／ブレーキライト
12 V, 8/23 W × 1

スピードメータライト
12 V, 3.4 W × 1

お客様ご相談窓口のご案内

お買い上げいただきました製品やサービスに関してのご意見はご購入いただいたヤマハ販売店または下記の＜ご相談窓口＞へお気軽にお申し付けください。

名　　称	電話番号	郵便番号	所　在　地
ヤマハ発動機販売（株） 営業統括部 営業部 営業課 冬期商品グループ	☎03(5713)3863	〒144-0035	東京都大田区南蒲田2丁目16-2 テクノポート三井生命ビル3F

受付時間　月曜～金曜（除く祝日）
9:30～12:30　13:30～18:30

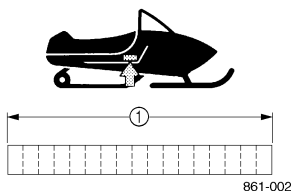
【ご注意】

- 土曜、日曜、祝日、年末年始は休業させていただきます。
  その他夏期等休業させていただく場合があります。
- 区画整理、電話局の親増設などにより、住所、電話番号が変更になることがありますのであらかじめご了承ください。

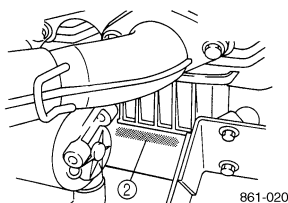
■ 識別番号の記録

ヤマハ販売店にスペアパーツを注文するときのために、車体番号、エンジン番号を下の空欄に記入しておいてください。
スノーモビルが盗難にあったときのためにこの取扱説明書とは別に番号を控えておいてください。

◆ 車体番号：

車体番号はスノーモビルの車体に 17 桁の数字で刻印されています。

① 車体番号

◆ エンジン番号 :

エンジン番号は図の位置に刻印されています。

② エンジン番号

保証

問題の原因特定やその対処方法について疑問がある場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。認められていない修理、場当たり的な修理、または間違った修理をおこなった場合は保証が無効になりますので、保証中でも特に注意が必要です。ヤマハ販売店にはスノーモビルを正しく修理するために必要な特殊ツール、専門の技術、および予備部品が備わっています。仕様や保守手順に疑問があれば、常にヤマハ販売店にご相談ください。場合によっては、取扱説明書の印刷ミスや製造変更が原因で本書の説明が正しくないことがあります。当モデルに完全に精通するまでは、保守作業を始める前にヤマハ販売店にご相談ください。詳しい保守作業や点検のための情報をご希望の場合、ヤマハ販売店からサービスマニュアルを購入することもできます。

索引（さくいん）

索引（さくいん）

★ヘルメットを必ずかぶりましょう。
★オフロードモデルは公道を走れません。
★点検・整備を忘れずに。
★安全のため改造はやめましょう。
★安全運転講習を受けましょう。
★天気予報を確認して、無理のないツアー計画を。
★ツアー時は安全備品や予備燃料を忘れずに。
★マナーを守って走行しましょう。
★動物や植物など自然への思いやりを。
★スノーモビル保険に加入しましょう。
★オフロードモデルは運輸省の認定を受けていませんので、
ナンバープレートを取得できません。
★オフロードモデルの公道走行は、道路交通法及び
道路車両法の違反となります。

QQS-CLT-850-8JD

再生紙を使用しています

PRINTED IN JAPAN
2012.06-0.3×1 CR